

知と出会い、人と出会う大学：京・江戸・博多、そして巴里：2

南野，森
九州大学大学院法学研究院：教授

<https://hdl.handle.net/2324/7160658>

出版情報：福音宣教. 76 (2), pp.14-15, 2022-02-01. Oriens Institute for Religious Research
バージョン：
権利関係：



2 知と出会い、人と出会う大学

2002年4月、私は九州大学法学部の教員となった。京都生まれの京都市、大学こそ東京へ行つたものの、九州には縁のないまま30歳を過ぎ、初めての福岡暮らしであった。以来かれこれ20年。良くも悪くも一般社会とは異なる様々な経験をさせてもらったと言えそうであるが、それでもここ2年ほどは今までにないこの連続で、やや大げさに言えば、大学とは何か、教育とは何かを改めて考えさせられる日々であった。もちろん、コロナ禍のせいである。

学生の状況はもちろん人それぞれで、それぞれにそれぞれの苦しみがあっただろう。それでも一般的に言えば、2020年4月の新入生は特に気の毒であった。入試を突破し晴れて入学、初めての1人暮らしという学生も多いなか、入学式や説明会等の新入生向け企画はすべて中止、授業開始は5月に延期、サークル活動も全部停止。多くの新入生が、右も左もわからない福岡で1人暮らしのアルバイトに「自宅軟禁」されてしまったのは、本当に可哀想であった。

当時、法学部学務委員長という役職にいた私は、学生の大学生活や学修環境のあれこれに責任をもつ者として、手探りで、思いつくままに、とにかく法学部新入生を孤立させないために奔走した。大学本部からの指示は、5月に授業を「オンライン」で始めるといふ、ただそれだけ。あとは各学部に任せる、と。しかし我々教員側もZoomとかいうネットを利用した遠隔会議システムなど使ったことがなかったし、ましてやつい先日まで高校生だった新入生がそんなもので遠隔授業をすると言われてハイ了解、となるのかどうか。パソコンやネットに慣れて

Zoomを利用したゼミ(2020年5月7日)。ゼミは少人数なので、全員が顔を出して近況報告や雑談をしたり、感染状況が落ち着くとみんなで街に出かけたり、といった工夫をすることでかろうじて人間関係を作り上げた(しかし例年ほどには仲良くならず)。もとより大人数の講義ではそれも不可能。顔も出さないし雑談もできない。ましてやみんなで食事など……。



いない学生もいるだろうし、自宅にWiFiのない学生もいるのではないかな。

私は、法学部新入生の200人全員に連絡を取ることにした。学生メールの設定が済んでいる学生との連絡は比較的スムーズに進んだが、そうでない学生には、保護者や高校の先生に仲介をお願いしたりもした。10日ほどかかったが、最後の一人が私のメールに返事をくれたときは、一山越えた気がして嬉しかった。

その後は、Zoomの説明をし、自宅にWiFiを用意できない学生には法学部の資金で機器をレンタルする手はずを整えるなどした。そして実際にZoomに慣れてみようというところで、1週間に1回ほど、希望する新入生とZoomで雑談をする時間を設けた。この試みは、知り合いゼロの新入生たちには比較的好評で、オンライン授業の開始後も夏休みになるまで続けることになった。

それからもうすぐ2年。あの新入生たちは2年生になり、今学期は私の憲法の対面講義を受けている。大学本部は、後期の授業は対面でもオンラインでも可としているが、いまでは学生も教員もZoomにすっかり慣れ、自宅からでも旅先からでも講義も受講もできる便利さを享受している。しかし私は、せめてこの年の学生たちには対面授業を提供し、できるだけ大学に出てくるように誘導したいと思っている。大学は出会いの場。知識のみならず、人とも出会う空間である。授業の前後などに、学生同士が会釈から始まって徐々に親しくなり、人間関係が緩やかに出来上がっていくのを見るのは嬉しい。お節介ではあるけれど、そういうきっかけを教員側が作ってやらなければ、と私は考えている。



みなみの・しげる●九州大学法学部教授。京都市生まれ。洛星中・高等学校、東京大学卒業後、同大学大学院、パリ第10大学大学院を経て、2002年九州大学助教授、14年教授。AKB48の内山奈月との共著で好評を博した『憲法主義』(PHP文庫)ほか著書多数。